

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岸中】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	・学校全体としては、「知識・技能」の定着を図ることができている。しかしながら、一定数の生徒は、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。次年度も「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行い、個別最適な学習を充実させ、知識・技能の確実な定着を図ることができるようにする。
思考・判断・表現	・調査結果からは、「思考・判断・表現」についても一定の成果が伺える。本校の生徒は、課題について、自ら考え、自分なりに表現する力はある程度身に付いていると思われる。次年度は「オウリンクプラス」やICT等の思考ツールを授業をより活用し、子どもたちの探究のため、他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善を目指す。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語、数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和6年度さいたま市学習状況調査の自校結果より1pt向上させる。 <指導上の課題> 個別最適な学習を充実させ、知識・技能の確実な定着を図ることができる授業を実施する。	⇒ 「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 令和6年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語において2pt、数学において1pt向上させる。 <指導上の課題> 他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善を目指す。	⇒ 生徒がレポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価する。

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	・全国学力・学習状況調査は国語で5%、数学で15%、さいたま市学習状況調査では平均5~8pt以上の上昇が見られたため、改善策は達成できたと考えられる。
思考・判断・表現	B	・全国学力・学習状況調査は国語で5%、数学で20%、さいたま市学習状況調査では平均5pt以上の上昇が見られたため、改善策は達成できたと考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・令和7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、国語では全国・県平均を5%以上、数学では15%以上上回った。 これらの成果は、基礎的・基本的な知識技能の定着を重視した学校の取組が確実に機能した結果であると考えられる。
思考・判断・表現	・令和7年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、国語では全国・県平均を5%以上、数学では20%以上上回った。 これらの成果は、自分の考えを根拠に基づいて説明し、他者の意見と比較し、考えを深める学習活動を体系的に位置付けた授業を実施してきた結果であると考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・令和7年度さいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して全ての教科で平均を上回ることができた。教科によっては10pt以上上回るものもあり、知識・技能の確実な定着を図ることができていると考えられる。
思考・判断・表現	・令和7年度さいたま市学習状況調査において、市の結果と比較してほぼ全ての教科で平均を上回ることができた。「知識・技能」とは異なり、10pt以上上回るものはなかったが、他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善に取り組んだ結果と考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行うことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	・生徒がレポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価することができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)